

2008●図書館展示4月
展示期間●4月7日-5月2日

2008年度基礎ゼミ・レクチャーコンサート参考資料展

ピアノを中心とした室内楽

シューマン
《ピアノ五重奏曲変ホ長調作品44》



シューベルト 《岩の上の羊飼い》

ブーランク
《ピアノと木管のための六重奏曲》



企画●二塚恵里（国立音楽大学附属図書館データベース開発部）

場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

ピアノを中心とした室内楽

2008 年度基礎ゼミ・レクチャーコンサート参考資料展

今年度のレクチャーコンサートで、シューマン《ピアノ五重奏曲変ホ長調作品 44》、
シューベルト《岩の上の羊飼ひ》、プーランク《ピアノと木管のための六重奏曲》
が演奏されます。

3 人の作曲家の肖像や自筆譜の複製、ピアノを含んだ室内楽の演奏を描いた
絵画などを展示します。

| CONTENTS | |
|----------|---|
| | |
| シューマン | 2 |
| シューベルト | 3 |
| プーランク | 5 |
| 室内楽とピアノ | 7 |
| | |

企画 二塚恵里（国立音楽大学附属図書館データベース開発部）

シューマン, ローベルト

Schumann, Robert

1810年6月8日ザクセンのツヴィッカウ生、1856年7月29日ボン近郊エンデニヒ没
ドイツの作曲家、ロマン主義音楽の中心的人物

演奏曲

ピアノ五重奏曲変ホ長調作品 44

Quintet, piano, strings, op. 44, Eb major

作曲年：1842年

献呈：クララ・シューマン

編成：ピアノ、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ

この曲は、シューマンのいわゆる「室内楽の年」の1842年に作曲されたもので、弦楽四重奏にピアノを加えたといういわば正統的なピアノ五重奏の編成をとる。こうした編成の室内楽曲は古典派の時代にはまだ好まれていたわけではなく、弦楽四重奏というジャンルが主流で、ピアノを加えた室内楽曲では、ピアノ三重奏かピアノ四重奏が中心になっていた。この作品は、この編成の曲で最初の成功した例となっているものであり、ロマン派から近代のピアノ五重奏曲の方向を予知させるものでもあった。

参考:シューマン / 音楽之友社編. - 音楽之友社, 1995(作曲家別名曲解説ライブラリー23) p.71 <請求記号 C60-351 他 >

その特徴は次のように要約されよう。(一)それまでのシューマンの音楽と異なって美しい旋律で満たされ、音楽の段落が明瞭であること、(二)ただし構造内部において主題音形が次の旋律を生みながらラブソディックに変容するプロセスのみごとさ、(三)第一楽章の主題が第四楽章コーダで回帰して全体を総合にもたらず構造設計、(四)バッハから学んだ対位法書法と独自の転調技法によるテクスチュアの繊細さ、であろう。最初は五楽章構成で書かれていたが、スコアにする段階で悲嘆に満ちたアリア楽章(ト短調)が削除されて四楽章に整えられた。

シューマン / 藤本一子. - 音楽之友社, 2008(作曲家・人と作品シリーズ) p. 182-183

展示資料

パネル

・1839年3月の肖像

Joseph Kriehuber によるリトグラフ。

・ローベルト・シューマンと妻クララ・シューマン

1850年3月、ハンブルクにて。

(ピアノ五重奏曲)の初演は1843年1月8日、ライプツィヒのゲヴァントハウスにおいて、クララ・シューマンのピアノ他によって行われた。楽譜は1843年9月13日、クララの誕生日に出版された。

以上2点 Robert Schumann / John Worthen. - Yale University Press, c2007 <請求記号 J111-799 >

・《ピアノ五重奏曲変ホ長調作品 44》自筆譜の複製

Schumann / von Walter Dahms. - 1. bis 3. auf. - Schuster & Loeffler, 1916 <請求記号 C5-078 >

楽譜

“ Robert Schumann's Werke ”

Reprint : Farnborough, Gregg Press, 1967-68 請求記号 A1-859

シューマン全集の《ピアノ五重奏曲変ホ長調作品 44》

Robert Schumann

“ Quintet Eb major for pianoforte, 2 violins, viola and violoncello, op. 44 ”

London : Eulenburg, [19--] 請求記号 E6-814 ; E6-815 ; E8-795

シューマン《ピアノ五重奏曲変ホ長調作品 44》ミニチュアスコア

Robert Schumann “ Quartett für Pianoforte, Violine, Viola, Violoncell, op. 47 ”

Leipzig : C.F. Peters, [1961] 請求記号 H10-410 ; H10-411 ; H10-412 ; H10-413

《ピアノ五重奏曲》と同じ「室内楽の年」(1842年)に作曲された《ピアノ四重奏曲変ホ長調作品 47》の楽譜

録音資料

シュテファン・ヴラダー(ピアノ)、ウィーン・アルティス弦楽四重奏団 1993年録音 請求記号 XD30025

アルトゥール・ルービンシュタイン(ピアノ)、ガルネリ弦楽四重奏団 1966年録音 請求記号 XD35510

Ensemble aventure 1996年録音 請求記号 XD37420

スヴァトスラフ・リヒテル(ピアノ)、ポロディン四重奏団 1995年録音 請求記号 XD44133

マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、他 2002-2004年録音 請求記号 XD56207/-56209

Michelangelo Piano Quartet, Antonio De Secondi(ヴァイオリン) 2000年録音 請求記号 XD57616

ジャン・ユポ(ピアノ)、ヴィア・ノヴァ四重奏団 1978-1979年録音 請求記号 XD2888/-2893

シューベルト, フランツ

Schubert, Franz

1797年1月31日ウィーン生、1828年11月19日ウィーン没

オーストリアの作曲家

演奏曲

岩の上の羊飼ひ D. 965 (op. post. 129)

Der Hirt auf dem Felsen

作曲年 : 1828年

編成 : ソプラノ、クラリネット、ピアノ

シューベルトの最晩年のリート。ピアノのほかにクラリネットの伴奏をもつ。彼には他に同年作曲のホルンとピアノ伴奏つきの『流れの上で』D943 があり、晩年になってからそうした複数の伴奏楽器のリートを意図しはじめていたことがわかる。(中略)詩は『冬の旅』の作詩者ミュラーと、シューベルトが作曲した劇音楽『ロザムンデ』の台本を書いた女流作家シェジの詩をつぎ合わせたものである。(中略)クラリネットは羊飼いの牧笛を模し、アルプスの高地の澄んだ空気感をあますところなく伝える。声はコロラトゥーラの高度な技術を凝らし、美しいメロディの大きな弧を描く。中間部は短調で羊飼いの孤独をしみじみと奏で、そのあとふたたび長調に戻り、軽快なロンドで春のよこびをいっぱいに歌い上げる。シューベルトのリートのなかの傑作のひとつ。

声楽曲鑑賞辞典 / 中河原理編. - 東京堂出版, 1993 p. 138-139 <請求記号 C60-369 他>

シューベルトの最後の歌かもしれないが、あるいは(白鳥の歌)の 鳩の使い に少し先んずるかもしれない。(中略)

この歌はシューベルトの作曲のなかでは特殊なもので、リート的な味わいにさらに大きな演奏効果がねらわれていて、高度な声の技巧が織り込まれている。伴奏もピアノだけでなくクラリネット(またはチェロ)も使っている。一説によるとこれはシューベルトの音楽が好きで、かねてから彼に高い声楽的要求を満足させるような曲を依頼していた歌手のアンナ・ミルダー・ハウプトマンのために作曲されたということで、シューベルトの死後、楽譜が彼の兄によって依頼者に送られたということである。(中略)

(歌詞大意)

高い岩に立って深い谷をのぞんで歌えば、はるか暗い谷底から声はこだましてかえってくる。はるかかなたの恋人を想って呼べば、声は下のほうからもどってくる。悲しみにうちひしがれ、喜びは消え去り、この世の望みは失せ、私ひとり寂しくここに残る。こうして歌は森に、また夜に憧れをこめて響きわたり、心はその不思議な力で空にはばたく。春がやってくる。わが喜びの春だ。さあ旅の準備をすませよう。

シューベルト / 音楽之友社編. - 音楽之友社, 1994(作曲家別名曲解説ライブラリー17)p. 359 <請求記号 C59-274 他>

展示資料

パネル

- ・ 1826 年の肖像

Josef Teltscher によるリトグラフ。

Schubert, the man / [by] Oscar Bie. - Greenwood Press, [1971] <請求記号 C21-441 >

- ・ ピアノを弾くシューベルト (シルエット)

シューベルト / 音楽之友社編. - 音楽之友社, 1994 <請求記号 C59-274 他>

- ・ 《岩の上の羊飼い》自筆譜の複製

Neue Schubert-Ausgabe. - Barenreiter, 1964- <請求記号 A7-235 >

楽譜

“ Neue Schubert-Ausgabe ”

Kassel, New York, Barenreiter, 1964- 請求記号 A7-236

シューベルト新全集の(岩の上の羊飼い)

“ Franz Schubert complete works ”

Reprint : New York, Dover Publications, 1965 請求記号 A1-826

シューベルト全集の(岩の上の羊飼い)

Franz Schubert “ Der Hirt auf dem Felsen : fur eine Singstimme, Klarinette und Klavier : op.post. 129 : D 965 ”

Wiesbaden : Breitkopf & Hartel, [1980?] 請求記号 F5-062

シューベルト(岩の上の羊飼い)スコアとパート譜

Franz Schubert “ Auf dem Strom : fur eine Singstimme, Horn und Klavier, op. post. 119, D 983 ”

Wiesbaden : Breitkopf & Hartel, [19--] 請求記号 F9-506

(岩の上の羊飼い)と同じ1828年に作曲された(流れの上で)(ソプラノ、ホルン、ピアノ)の楽譜

録音資料

ユリア・ハマリ(アルト)、カルメン・ピアッツィーニ(ピアノ)、パウル・マイゼン(フルート) 1981年録音 請求記号 XD2612

ナンシー・アーゼンタ(ソプラノ)、メルヴィン・タン(ピアノ)、エリック・ヘーブリヒ(クラリネット) 1990年録音 請求記号 XD13533

アン・マッケイ(ソプラノ)、プロメテウス・アンサンブル 1989年録音 請求記号 XD28239

映像資料 (シューベルトの様々な楽曲)

シューベルト物語 : 1797~1828(ミュージック・マエストロ・コレクション : 音楽と映像で綴る名作曲家の世界6) 請求記号 VE1147

シューベルト : 美しい希望を秘めて 請求記号 VD513 ; VD2981

栄光のウィーン~18, 19世紀 請求記号 VD1388/- 1389(2)

プーランク , フランシス

Poulenc, Francis

1899年1月7日パリ生、1963年1月30日パリ没

フランスの作曲家、ピアニスト

演奏曲

ピアノと木管のための六重奏曲

Sextet, piano, woodwinds, horn

作曲年 : 1932-39年

献呈 : ジョルジュ・サレ

編成 : ピアノ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン

室内楽も五重奏までは曲数も多くあり、またその組合せも多彩であるが、六重奏以上のものはきわめて数少ない。プーランクもソナタはいくつか書いているが、四重奏以上の組合せはこれだけである。曲は1932年「二台のピアノのための協奏曲」と同じ時期に書かれ、共通する語法がみられる。しかし作曲者はこれに満足せず、1939年に手を加えて今日のような形にした。

最新名曲解説全集 第13巻、室内楽曲3 / 音楽之友社編。 - 音楽之友社, 1981 p. 362 <請求記号 C32-065 他 >

33歳の気鋭の作曲家プーランクが作曲(後に大幅に改訂)したもので、芸術至上主義、ドビュッシーなどの印象主義にあきた新世代の音楽家の意気込みと立場を明確に表した作品である。(中略)プーランクならではの新鮮な精神の躍動を、そのまま音化したような作品といえるだろう。

アンリ・エルは、彼が著した評伝「プーランク」(1978)の中で、この作品について手短に次のように述べている。「この六重奏曲は、用いた管楽器のためにはたいへんみごとに書かれており、各楽器はもっともよく鳴る音域で、もっとも適切に各々の役割を演じている。つまり音はもっとも容易に性格に表情豊かであるのだ。」

室内楽曲. 下 / 音楽之友社編. - 音楽之友社, 1984(On books special. 名曲ガイド・シリーズ9) p. 47 <請求記号 C40-661 他>

展示資料

パネル

- ・ 1938年の肖像
- ・ ピアノを弾くプーランク

以上2点 Francis Poulenc, musicien francais / Henri Hell. - Fayard, c1978 <請求記号 C35-937>

- ・ プーランクの自筆譜の複製

曲は《廃墟を見守る笛吹き像》(フルート)

Un joueur de flute berce les ruines / Francis Poulenc. - Chester Music, c2000 <請求記号 H39-136>

楽譜

Francis Poulenc“ Sextuor pour piano, flute, hautbois, clarinette, basson et cor ”
Kobenhavn : W. Hansen, c1945 請求記号 E13-926 ; E5-995
プーランク《ピアノと木管のための六重奏曲》ミニチュアスコア

Francis Poulenc“ Sextuor pour piano, flute, hautbois, clarinette, basson et cor ”
Copenhagen : W. Hansen, c1945 請求記号 H11-489 ; H35-128s
プーランク《ピアノと木管のための六重奏曲》スコアとパート譜

録音資料

ジェイムズ・レヴァイン(ピアノ)、アンサンブル・ウィーン=ベルリン 1989年録音 請求記号 XD26719

藤井一興(ピアノ)、トゥールーズ木管五重奏団 1992年録音 請求記号 XD38441

パスカル・ロジェ(ピアノ)、他 1988年録音 請求記号 XD28362

室内楽とピアノ

「室内楽」とは

室内楽の定義には様々なものがあります。一例として、『ニューグローヴ世界音楽大事典』では次のように書かれています。

室内楽

chamber music [英] musique de chambre [仏] Kammermusik [独] musica da camera [伊]

「室内楽」という用語は、一般に、独奏楽器から成る小編成のアンサンブルのために書かれ、客間や小会場といった家庭的環境において、限られた人数の聴衆を相手に、もしくはいっさい聴き手を必要とせずに演奏される音楽を指します。

本質的には、演奏されることを目的として作曲された親密な性格の音楽という意味を持ち、一緒に演奏することの社会的・音楽的な喜びが、最も重要な要素の1つとなっています。

特定の種類や規模のアンサンブルとして狭義に示される場合もありますが、広い意味で捉えると、共通した特徴を持つのはそれだけに限りません。器楽曲に限定すると、シューベルトの〈岩の上の羊飼ひ〉のような作品が除外され、16世紀のマドリガルや19世紀のリートのような声楽曲に言及されないこととなります。また、2人以上の演奏者を含むとされることもありますが、ルネサンスのリュート曲、バッハのヴァイオリンソナタ、パルティータ、チェロ組曲、ベートーヴェンのいくつかのピアノソナタのように、室内楽の機能や特徴を有する独奏曲も数多くあります。

“室内楽” “Chamber music” (Grove Music Online) より翻訳・抜粋

ピアノを含む室内楽曲の様々な編成

具体的な曲を例に、ピアノを含む室内楽曲(器楽曲)の楽器編成をご紹介します。他にも色々な曲・組合せがあります。

(参考: Grove Music Online)

ピアノ三重奏

ピアノと他の2つの楽器、通常、ヴァイオリンとチェロのための作品。このジャンルは、弦楽器から鍵盤楽器のパートへとアンサンブルの重心が移ったことにより、18世紀中頃にバロックのデュオ、トリオ・ソナタ、鍵盤ソナタから生まれました。

その他の組合せの例

- ・ モーツァルト 《クラリネット三重奏曲 変ホ長調 K. 498》(ピアノ、クラリネット、ヴィオラ / 1786)
- ・ ベートーヴェン 《ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調 作品11》(ピアノ、クラリネット、チェロ / 1797(? 1798))
- ・ ウェーバー 《ピアノ、フルートとチェロのための三重奏曲 ト短調 作品63》(1818 19)
- ・ ブラームス 《ホルン三重奏曲 ホ長調 作品40》(ピアノ、ヴァイオリン、ホルン / 1865)

ピアノ四重奏

ピアノと他の3つの楽器、通常、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための作品。この形は1750年代～1780年代の伴奏付きの鍵盤楽器のディヴェルティメントから生まれ、初期の鍵盤楽器の協奏曲とも関わりがあります。

その他の組合せの例

- ・ウェーベルン《ヴァイオリン、クラリネット、テナー・サクソフォーンとピアノのための四重奏曲 作品22》(1930)
- ・メシアン《世の終わりのための四重奏曲》(クラリネット、ピアノ、ヴァイオリン、チェロ / 1941)

ピアノ五重奏

ピアノと他の4つの楽器、19世紀以降は通常、弦楽四重奏のための作品。ピアノ四重奏と同様に、18世紀後半の伴奏付きの鍵盤ソナタやディヴェルティメントから生まれた標準的な編成の1つで、鍵盤楽器の協奏曲とも関わりがあります。

その他の組合せの例

- ・モーツァルト《ピアノ、オーボエ、クラリネット、ホルンとファゴットのための五重奏曲変ホ長調 K. 452》(1784)
- ・シューベルト《ピアノ五重奏曲 イ長調 D. 667: 鱒》(ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス / 1819)
- ・リムスキー=コルサコフ《五重奏曲 変ロ長調》(ピアノ、フルート、クラリネット、ホルン、ファゴット / 1876)

六重奏以上の組合せの例

- ・メンデルスゾーン《六重奏曲 二長調 作品110》(ピアノ、ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ、コントラバス / 1824)
- ・マルティヌー《ピアノと管楽のための六重奏曲》(ピアノ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット2 / 1929)
- ・ドホナーニ《六重奏曲 八長調 作品37》(ピアノ、クラリネット、ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ / 1935)
- ・フンメル《軍隊風七重奏曲》(ピアノ、フルート、クラリネット、トランペット、ヴァイオリン、チェロ、コントラバス / 1829)
- ・モシェレス《七重奏曲 作品88》(ピアノ、クラリネット、ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス / 1832-33)
- ・シュポーア《七重奏曲 イ短調 作品147》(ピアノ、フルート、クラリネット、ホルン、ファゴット、ヴァイオリン、チェロ / 1853)
- ・ストラヴィンスキー《七重奏曲》(ピアノ、クラリネット、ホルン、ファゴット、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ / 1952-53)
- ・ルイ・フェルディナント《ピアノとクラリネット、2つのホルン、2つのヴァイオリン、2つのオブリガート・チェロのための八重奏曲 作品12》(1800頃)
- ・バラキレフ《フルート、オーボエ、ホルン、弦楽四重奏とピアノのための八重奏曲八短調 作品3》(1850-56)
- ・アントン・ルービンシュタイン《八重奏曲 二長調 作品9》(ピアノ、フルート、クラリネット、ホルン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス / 1856)
- ・アンリ・ベルティーニ《九重奏曲 作品107》(フルート、オーボエ、ホルン、ファゴット、トランペット、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ピアノ / 1845)
- ・ウェーベルン《協奏曲 作品24》(フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、トランペット、トロンボーン、ヴァイオリン、ヴィオラ、ピアノ / 1931-34)

展示資料

パネル

・ピアノ三重奏

標準的な編成のピアノ三重奏(ピアノ、ヴァイオリン、チェロ)を描いた彩色版画。

・練習風景

The Rehearsal

5種の木管楽器とホルンに、ピアノフォルテのついたアンサンブルの練習風景。M. Dovastun 原画による版画

以上2点 音楽史大図鑑 / 眞啓成著. - 増補版. - 音楽之友社, 1983 <請求記号 X-051/O>

・グッツヴィラー家の家庭音楽

Hausmusik bei Familie Gutzwiller

この絵の作者であるゼバスティアン・グッツヴィラー(1800-1872)が娘、息子と一緒にヴァイオリンとキーなしのフルート、ターフェルクラヴィーアで音楽を楽しんでいる。1849年。

Harenberg Kammermusikfuhrer / Geleitwort von Yehudi Menuhin.. - Harenberg, c1997 <請求記号 J87-820>

・ラズモフスキー伯爵邸での夜会

A soirée in the palace of Count Rasumowsky

ウィーンに駐在したロシアの大使、ラズモフスキー伯爵(1752-1836)は、1808年にシュパンツィクをリーダーとする弦楽四重奏団を結成し、この楽団をベートーヴェンに自由に使用させた。

A pictorial history of music / [by] Paul Henry Lang and Otto Bettmann.. - Hodder & Stoughton, [1960] <請求記号 X-051/L>

・デンマークのブルジョア家庭での音楽の夜会

Musikalische Soirée in einem dänischen Bürgerhause

コペンハーゲンのワイン商人クリスティアン・ヴォーゲペテルセン邸を舞台に、クラヴィーア五重奏の様子を描いたもの。招待客と富裕な商人一家を前に繰り広げられた半公開の催しには、コペンハーゲンの当時の指導的音楽家や作曲家が集まっている。ヴィルヘルム・マルストラン作(1834年)。

La Musique, des Egyptiens a aujourd'hui / [les articles etrangers ont ete adaptes par Yvette Metral, Elisabeth de Lavigne et Remi Simon].. - Nathan, c1984 <請求記号 X-051/M>

・アントン・ルービンシテイン邸での室内楽

Kammermusik bei Anton Rubinstein

ペテルブルクのサロンに紳士34人が集い、蠟燭をともした四重奏用の机を囲む4人の弦楽器奏者とピアノのアントン・ルービンシテイン(1829-1894)との演奏に聞き入っている。アレクサンドル・レベジェフの絵を原案とするリトグラフ(1860年)。

<家庭音楽>と室内楽 / ヴァルター・ザルメン著. - 音楽之友社, 1985 <請求記号 C18-168 他>

・Homer Ulrich による室内楽の標準的な編成一覧とその発展図

Chamber music.. - 2d ed.. - Columbia University Press, 1966 <請求記号 C17-928 他>より

書籍

Walter Salmen “ Haus- und Kammermusik : Privates Musizieren im gesellschaftlichen Wandel zwischen 1600 und 1900 ”

Leipzig : Deutscher Verlag fur Musik, [1969] 請求記号 C17-268 ; X-051/B 4-3

家庭音楽と室内楽を描いた図版集

Basil Smallman “ The piano trio : its history, technique, and repertoire ”

Oxford : Clarendon Press, 1990 請求記号 C51-748

ピアノ三重奏の歴史・研究

Basil Smallman “ The piano quartet and quintet : style, structure, and scoring ”

Oxford : Clarendon Press ; New York : Oxford University Press, 1994 請求記号 J79-954

ピアノ四重奏とピアノ五重奏の歴史・研究

Maurice Hinson “ The piano in chamber ensemble : an annotated guide ”

Bloomington : Indiana University Press, c1978 請求記号 C27-893

ピアノを含む室内楽曲の注釈付きガイド。第2版は参考図書室にあり<請求記号 X-074/H>

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)

<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2008/4/4 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 三宅巖・二塚恵里